ディスカッション
第一部　希望の来歴ー歴史

・外部性、融合、ネットワーク（人と人のつながり）（中村尚史）

・製鉄所を残そうとした先人の苦労　（青木）

・技能継承：　システムだけではうまくいかない。自発性を持たせることが大事　（仁田）

ディスカッション

第一部　希望の来歴―歴史

ローカル・アイデンティティ

＝地域の誇り

１．国、県、市町村は上下関係はない
＝世界の中の釜石

２．脱産業化社会に向けた構想

３．自分たちでやる

（宇野）

ディスカッション

第一部　希望の来歴ー歴史

・個別の利害を超えた全体の利益を重視すること。思いを共有するためのリーダーの重要性（青木）

・仕事（職場）と地域社会のかかわり。お互いに関心を持つ、期待を持つことが大事（仁田）

・外部性、社会を開いていくことが釜石の伝統（歴史）。今こそそれを再発見すべき。
　シュリンクshrinkする釜石という視点　（中村圭介）

ディスカッション
第一部　希望の来歴―歴史

・よそ者と出戻りを生かした街を（宇野）

・対話の重要性（中村圭介、仁田）

・オーラル・ヒストリーという手法（青木）

・地域から日本を考える視点（宇野）

ディスカッション

第二部　希望をつなぐ―地域社会

・困りごとやトラブルの解決に関する調査。気軽に相談できるような人の存在（家族、友人、専門家）がトラブルから抜け出すきっかけになる（佐藤）

・釜石市議会の八会派は多様な意見を代表している。会派は、地域、政党を軸に結集しているのではなく、考え方の近さ（政策の近さ）で結集している（上神）

ディスカッション

第二部　希望をつなぐ―地域社会

・ボランティア、NPOの調査を行った。釜石の住民活動が盛んではないのはなぜか？住民活動のノウハウ蓄積が重要ではないか。（大堀）

ディスカッション

第三部　希望の再生ー地域振興

・釜石の製造業の再生の当事者は、

①誘致企業、②新日鉄、③地元でがんばる中小企業、④市役所、振興局などの行政、⑤釜石市民。

・「ここはモノ作りを大切に考える土地ですから」

・（釜石の製造業の）課題　①誘致企業とのネットワークがない、②ばんばる地元企業が少なすぎる、③若い人のネットワークがない

（中村圭介）

ディスカッション

第四部　希望に向かって―市民の動向

・釜石は100年後の日本を先取りしている。

・第三次産業の回復の兆しはある。

・キャッチフレーズが必要

「銀河鉄道が三陸の海に出逢う街」

「第一級の自然のもとで、第一級のモノ作りをしてきた街」

・環境とモノ作りとを両立させるストーリーが必要。

（橘川）

ディスカッション

第四部　希望に向かって―市民の動向

・グリーンツーリズムは着実に成長している。

・グリーンツーリズムは、ローカル・アイデンティティを考えるきっかけになる。

・ローカル・アイデンティティを「鉄」を軸に作り変えるさいに、グリーンツーリズムが役に立つのではないか。

（大堀）

ディスカッション

第三部　希望の再生ー地域振興

・ラグビーに関心のあるひとは釜石に関心・誇りがある（同窓会アンケート調査より）

・課題　①サポーターの数があまり増えていない

②サポーターをサポートする人・雰囲気が足りない。

（宮島）

ディスカッション

第四部　希望に向かって―市民の動向

・同窓会調査は釜石の方々のご協力のおかげで、非常に貴重な調査となった

・調査結果と生活実感が異なると感じるかもしれない（アンケート調査の意義）

（永井）

ディスカッション

第四部　希望に向かって―市民の動向

・移動履歴調査

・移動は30歳までに起こる。

（西野）

ディスカッション

第四部　希望に向かって―市民の動向

・Uターン調査

・比較的高年齢の方は、持ち家のあるひとほど釜石にUターンする割合が高い。

・若い人は、人生の選択として釜石に帰ってきている人が多い。

（石倉）

ディスカッション

第四部　希望に向かって一市民の動向

・同窓会調査において、「釜石を誇りに思うか？」という質問に対してYes,No半々

・釜石出身者で現在釜石の外に住んでいる人の（釜石を誇りに思う）割合が高い。

・年齢には関係ない。

・自分自身が何かに希望を感じている人の方が（釜石を誇りに思う）傾向が強い。

（玄田）